

## 文京トリビアのたまご ～解答～(文京ふるさと歴史館編)

No	正解	解説
1	B)平成3年	文京ふるさと歴史館は、平成3年4月13日に開館しました。
2	A)奇縁氷人石	文京ふるさと歴史館1階に複製が展示してあります。
3	A)尋ね人を探すため	江戸時代には、尋ね人の名前を紙に書いて、奇縁氷人石の「たづぬるかた」と彫られた面に貼りました。尋ね人の行方を知っている人は、「おしゆるかた」と彫られた面に行方を書きました。
4	A)150年目の鷗外	森鷗外記念館は森鷗外生誕150周年の年に開館しました。B)は平成4年度に文京ふるさと歴史館で開催した展示、C)は令和2年8月8日から11月29日まで森鷗外記念館で開催する展示です。
5	C)弥生式土器	弥生時代という名称は、明治17年に本郷区向ヶ岡弥生町の遺跡から発見された土器が後に「弥生式土器」と呼ばれ、この土器が使われていた時代という意味で名付けられました。
6	C)かねやす	かねやすは、享保の頃(1716～36年)に兼康祐悦(口中医師＝歯科医)が開いた店で、乳香散という歯磨き粉を売っていました。本郷三丁目交差点に今も店(現在は閉店)が残っています。
7	A)胸突坂	江戸時代の地誌には「坂のけはしくて胸をつくばかりなれば名付といふ」とあります。坂下には水神社(すいじんじゃ)があるため、水神坂とも呼ばれます。
8	B)文化の風景	「文化の風景」コーナーでは、「文教のまち」を形成した教育と文人たちの足跡を紹介しています。
9	C)高崎屋	文京ふるさと歴史館に展示されている「高崎屋絵図」は、江戸時代の高崎屋の店先の賑わいや、豪商の住居の様子を伝えています。
10	C)樋口一葉	樋口一葉は、本郷丸山福山町(現・西片1丁目)で24歳8か月の短い生涯を閉じました。そこに住んだ2年余りの間に「たけくらべ」「にごりえ」などの後世に残る傑作を発表しました。

No	正解	解説
11	C)森鷗外	現在の千駄木に自宅があった鷗外は、大正11(1922)年7月9日に亡くなりました。60歳でした。 現在、鷗外の旧居跡は森鷗外記念館になっています。
12	C)藍染川	藍染川は、かつて根津を流れていた川でした。
13	A)観潮楼	自宅の2階から海が見えたからではないかと言われています。
14	B)湯島聖堂	聖堂の西側に開設された昌平坂学問所では、その頃の最高学府として、幕臣の教育(儒学)が行われ、諸藩の優れた藩士たちも学び、幕府における文教の中心的役割を果たしました。
15	B)約20m	春日～本郷三丁目の途中にあります。
16	C)団子坂	坂名は、坂のかたわらに団子を商う店があったことなどに由来します。またこの坂道は、潮見坂・千駄木坂・七面坂など多くの異名を持つ坂道でもあります。坂上には、かつて森鷗外が暮らした観潮楼(かんちょうろう)跡があります(現 森鷗外記念館)。
17	B)根府川石	根府川は神奈川県の名地名です。現在、森鷗外記念館の庭にこの詩の碑があります。
18	B)学童社	手塚治虫は大阪大学医学部の学生時代に先輩漫画家の自宅を訪ねるため、本郷弓町(現在の本郷1丁目)にあった学童社を訪問しました。応じた講談社の元・編集者、加藤謙一は、手塚の素質を見抜き『漫画少年』誌に原稿を掲載する様に勧めました。デビュー作『ジャングル大帝』は大ヒット、一躍、人気漫画家となってゆきました。
19	C)コロボックル	坪井正五郎は、縄文時代の貝塚を残した人々を日本人の祖先と考えず、フキの下で生活する伝説の民族「コロボックル」であると考えました。本駒込に所在する南谷寺には、坪井の鑑定した縄文式土器や石器を縛り付けた額が残り、徳源院には記念碑「太古の遺跡」も残されています。
20	A)目赤不動	動坂の坂上に、昭和50年代まで所在していた目赤不動堂を建設する際に土器や石器が発見されました。

No	正解	解説
21	A)炭団坂	炭団(たどん)とは、炭の粉末を団子状に固め、燃料として使用したものです。坂名の由来は、坂周辺に炭団を商う者が多くいた、あるいは炭団のように転がってしまうほど急な坂だったため、など諸説あります。
22	A)郁文館	夏目漱石が小説家として世に出た頃に住んでいた家(現在、愛知県犬山市に移築)の隣接地には郁文館中学がありました(現 郁文館夢学園)。同校の学生が野球をする度毎に、ボールが家に飛んできて、漱石は毎回、学生達を叱っていたと言います。
23	C)緑	正面入り口向かって右側の屋根部分が緑色です。
24	C)やっちゃば	青物市場を「やっちゃば」と呼ぶのは、声を張り上げて野菜を売る声、またセリの声、品物を数える符丁の調子から生まれたといわれています。
25	B)モリキネ カフェ	森鷗外記念館=モリ(オウガイ)キネ(ンカン)から名付けました。
26	C)駒塚橋	西から東に流れる神田川にかかる橋の内、区内で一番西にかかっているのが駒塚橋です。西江戸川橋は、江戸川橋よりも東にかかっています。
27	C)朗月亭羅文	明治22年頃、谷中天王寺(台東区)近くにあった露伴の家で同居していました。露伴の弟幸田成友が和訳し、羅文が翻案した『宝窟奇譚』は、羅文の没後に露伴との連名で発表されました。
28	A)藍染川	江戸時代~明治・大正年間の根津地域では、川の流れを利用して、藍染めが盛んに行われていました。
29	B)新坂	江戸時代に新しく開かれたことにより“新坂”と名づけられました。明治時代以降は、写真撮影を趣味としていた徳川慶喜が、カメラを携え上り下りしていたかもしれません。
30	B)根津小学校	昭和49年当時、根津小学校に通っていた小学5年生数名が、東京大学工学部浅野地区で土器の破片を発見しました。これが契機となって、明治17年に発見されながら所在が不明となっていた弥生町遺跡の再発見につながりました。